

平成26年度 学校評価自己評価表(中間・最終)

【ミッション】(学校の使命)		【ビジョン】(将来の学校像)									
経営理念		津田小学校との統合に向けた準備を着実に、「浅原小学校で学んでよかった、思い深い1年だった」と思える教育活動を精選・充実・創造し、ふるさと浅原を愛する児童を育てる。									
評価計画					自己評価				学校関係者評価		改善計画
中期経営目標	短期経営目標 (◎=重点項目)	目標達成のための方策	成果指標	担当	最終目標値	達成値		達成度	評価	コメント	改善策
						中間	最終				
確かな学力	基礎・基本を重視した学力の定着と向上	言語活動の充実を図り、表現力を付ける	読書のポイントを生かして聞く・話す活動が十分でき、自信をもって説明・質問・応答ができる。	教務	発表内容に合わせ、発表方法を工夫し、友達と考えに質問や応答ができる児童の割合を85%以上に(児童アンケート)。	A 88%				・学力アップのために先生方がいろいろと取り組んでくださっているのがありがたい。 ・以前より元気よく発表していると感じた。学力向上についても指導がよく行きたっていると思う。 ・いろいろな行事に参加させていたたい発表の力が付いているのに感心します。	・集会などでの発表では、積極的に自分の考えを話す児童が増えた。また、自己評価も89%と自己肯定感をもつ児童も多い。しかし、相手に分かるように説明したり応答したりすることに課題がある。そこで、授業で、「つなぎ発言」を積極的に取り入れること、一文一義の原則を意識させ、話す内容を明確にさせる。
		◎思考力・判断力・表現力育成のための授業改善を図る	既習事項を生かし、思考力をつける	既習事項や算数的用語を使い、算数的活動を主体的に行い、ノートや発表ボードにかいて問題解決できる。	教務	全国・広島県・廿日市市学力調査で「通過率60パーセント以上の児童の割合」が90%の正答率を取る。	A 100%				・全国学力・学習状況調査・広島県「基礎・基本」学力定着状況調査では、通過率は60%以上の児童の割合は100%である。テストに向けて、既習事項の確認をしたり、ドリルの徹底・家庭学習の充実を図ったりした。がんばりタイムで基礎的・基本的な内容の定着を図る取組を全校で行っている。今後も継続して取り組む。
		特別支援教育を基盤とした授業づくりを図る	学習に集中し、だれもが分かる授業を創る。	・休憩前に次時の学習の準備を済ませる。 ・学習の見通しをもたせる。	特支 コ	・児童の自己評価「できた」が85%以上(ステップアップ週間のカードに項目を入れる)にする。 ・職員自己評価B以上80%以上にする。	A 1...93% 2...100%				
豊かな心	学校環境整備を通じた豊かな心づくり	人との関わりを重視した教育活動の充実	地域に根ざした教育活動の展開・充実(道徳・総合・生活・理科・社会等)	道徳	様々な教育活動の中にゲストティーチャーの活用できる内容を検討して効果的な招聘を行う。	B 80%				・少人数のため外部との交流は大切だと思う。 ・ゲストティーチャーを招くということで児童の反応が楽しみ。 ・読書感想文などがあればよいと思う。 ・読む力はすべての学習にもつながっていくと思うので、本が好きな子どもになってほしいと思う。そのためには読書の習慣を身に付けてほしい。	生活科・総合的な学習の時間では、製の学習・茶道学習で、また、理科では、環境学習で、社会では、地域温暖化防止学習で、学活で平和学習などで1学期実施した。今後、浅原の歴史をまとめる際に、地域をよく知っているゲストティーチャーを招聘し、浅原に愛着がもてる児童の育成に努める。
		読書習慣の定着・向上と豊かな読書の充実	冊数と読んだ本のジャンルを増やす。	年50冊以上の読書をするともに、読むジャンルを広げる。家庭での読書習慣を身に付ける。	国語	・課題図書を含む年間60冊以上の読書をする児童を90%以上にする。 ・「読んだジャンルを5項目以上読む児童が90パーセント以上にする。 ・「さいきっカード」の読書時間を昨年より平均10分上回る。	B 1...94% 2...100% 3...5分				・年間の冊数については、大変意欲的に読書を行った。 ・ジャンルの幅を広げるために読書活動推進員の先生と連携してシールの活用や多様な図書の推薦などを定期的実施して、ジャンルを広げている。 ・家庭での読書時間は、昨年度より平均で5分上回った。どの学年も昨年度より上回っているため、今後も継続して取り組んでいきたい。
健やかな体	たくましくしなやかな心と体づくり	健康・体力づくりの推進	新体力テストの課題項目の向上・改善する。	体育	新体力テストの課題項目の数値を4月当初より向上するとともに県平均を上回る項目を1つ以上にする。					・県平均を上回る種目が多いと聞き、今後も期待している。 ・これから食は大切な部分で、昔の料理などを取り入れたらよいと思う。 ・食育も続けてほしい。	・7月現在において、県平均がまだ出していないので、正確な集計はできないが、昨年度の数値と比較すると、全項目において記録が向上している。また、立ち幅跳びについては、県平均を上回った。今後も引き続き取り組むたい。ただ、長座体前屈は個人差があり、課題をもつ児童がいるので個別指導を行う。
		食に関する指導の充実	食に関する授業等を通して食生活の改善を図る。	食に関するアンケートの自己評価や聞き取りで児童の満足度を80%にする。	保健 主事	満足度80%以上の児童が85%以上にする。	A 87.5%				・ランチルーム前に食育コーナーを作り、児童の感想や給食レシピを置くようにした。学校でできた野菜を紹介しそれで料理を作った。今後も食育コーナーの充実を計っていきたい。2学期は、栄養士の先生と連携し学活の授業として食育学習を進めていく。
信頼される学校	地域の特色を生かした取組の推進	伝統文化教育の充実	茶道学習・果実栽培・吹奏楽の充実・発展	教務	探求的な学習になるよう取り組む。	A 100%				・日本の文化を身に付けることはこれら海外で活躍する日本人にとって必要なことと感じる。 ・これからも継続してほしい。茶道に親しんでいる。また、児童も楽しみにしている。 ・伝統文化の教育は浅原小の誇れるものの一つだと思う。 ・人数が少ないのでできるスポーツも限られてくると思うが、その中でも子ども達の体力アップのために取り組んでいきたいがありがたい。 ・教職員の異動希望校の一つに津田小を入れてもらい、一人でも浅原小からの先生がいれば子ども達も安心して学習に集中できる。	・総合的な学習の時間で、必ず事前に自分のめあてを設定し、毎時間ふり返りを行っている。また、一学期末に、自分で決めたテーマについて新聞形式でまとめた。浅原の研究を一年かけて実施しているが、今は浅原の歴史調査として地域にインタビューを行っている最中である。今後も計画的に実施する。
		◎学校統合に向けた着実な教育活動の推進	学校交流だよりを定期的に発行する。	・年間計画に基づく学校統合に向けた進捗状況を管理する。 ・学校交流だよりを各学期に2回以上発行する。	教頭	・各学期に実施する保護者・地域・児童のアンケート結果で、85%以上の満足度を得る。	A 92.5%				・交流だよりを計画的に発行し、配布している。また学校ホームページにおいても交流の様子等を発信している。今後も計画的に交流だより発行やホームページの更新を行う。また、引き続き津田小学校と連携を図りながら統合に向けた進捗状況を管理していく。
小中連携	9年間を見通した小中一貫教育の推進	家庭学習に自ら取り組む児童生徒の育成	家庭学習定着のための基本的な生活習慣づくり(ひろしま学びのサイクルを生かした取組)	教務	けんこういきき家庭学習カードの学習時間が各学年×10分+10分を上回る児童が85%以上とする。	A 86.7%				・小中9年間の一体的な教育はよいことであり、充実して行ってもらいたい。 ・一週間実施するため、週末など何もしないで寝る日があるもので、週平均では、ぎりぎりの時間になりがちである。週末での家庭学習のあり方を今後指導して、どう過ごすべし話し合い、児童自らが気づけ出し、実践できるように支援していく。	・家庭学習の時間が各学年×10分+10分を上回る児童の割合は、全校で86.7%であった。調査は、一週間実施するため、週末など何もしないで寝る日があるもので、週平均では、ぎりぎりの時間になりがちである。週末での家庭学習のあり方を今後指導して、どう過ごすべし話し合い、児童自らが気づけ出し、実践できるように支援していく。
		マナーや規範意識の育成	礼儀日本一を目指す。	さいきっカードに沿って、あいさつ・返事、掃除、服装の徹底をする。 ・児童・保護者アンケートの実施を実施する。	生徒 指導	90%の児童が礼儀日本一を意識して生活を行っている。	B 84%				・学校や地域での評価では、挨拶はできているとしているが、家庭での評価では挨拶はできていないので、児童にはどこでもするように指導する。また朝会での服装チェックは効果があるので継続し、教室でも声かけをしていく。

【評価】 A:100≧(目標達成) B:80≧(ほぼ達成)<100 C:60≧(もう少し)<80 D:(できていない)<60